

日本昔話を語り継ぐことの意義

—授業前課題導入の試み—

鳥丸 佐知子

日本昔話の原作は、絵本やアニメ、映画などの多様な形態に加工されたものも含めると、一般の家庭のみでなく保育の現場などでもさまざまに活用されている。しかしそれらの現場活用の頻度は徐々に減少しており、保育者を目指す学生でも日本昔話の具体的な題名を挙げるのが難しくなっている。本論は『子どもと言葉』の授業前課題として「日本昔話を読み聞かせる」という実践を通し、学生に生じた意識変化について報告する。

キーワード：日本昔話、伝承、授業前課題、読み聞かせ

1. はじめに

絵本には子ども向き、若者向き、高齢者向きなど対象もさまざまであるが、ジャンルも多種多様である。保育の現場でも絵本は様々なところで活用されている。講座で学んだ幅広い知識や技能などを活かし地域や職場で、絵本の魅力や可能性を伝え、地域の読書活動を充実させる役割を担うために設定された「認定絵本土」養成講座テキスト（2020）によれば「絵本の体系とジャンル」は知識を深める分野の中に含まれており、「物語の絵本」「昔話・童話をもとにした絵本」「科学絵本等」の3種類に分類されている。その中で担当の藤本は、昔話と童話の違いについて以下のように述べている。

昔話は民衆の心を語る話です。昔の人々が野良仕事に手を休め、互いに興じる際に語った話であり、婆やが暖炉の前で子どもたちに語った物語であり、母親が幼子を寝かしつけるために聞かせたおとぎ話でした。こうした話は名もない語り手によって紡ぎ出され、世代を超えて語り継がれてきた「伝承の話」（中

略）一方、童話は伝承の話ではなく、誰かが書いた創作の物語です。もちろん作り話としては昔話と同じですが、昔話は最初に語った人が誰であるのか不明であるのに対し、童話の作者はわかっています。

また柳田は『口承文芸史考』（1976）の中で昔話の特徴として以下の4つを挙げている。

- ①昔話は「むかしむかしあるところに、・・・が住んでおった・・・」というような定型句で始まる。
- ②「トサ・ゲナ・・・」などは「伝聞」の言葉だが、自分は直接見たのでも聞いたのではないが、と伝聞の言葉を添えて、語りの合間にこの話は他者から聞いた話であると言い添えて語っていく。
- ③昔話は最後に「めでたしめでたし」とか「どっとはらい」というような定型句で閉じる。こうした決まり文句で、話はこれで終わりと言っている。
- ④「この文芸は口と耳とをもって世に流布していた」。これが一番大切なことだが、つまりは昔

話は語りであり、語りの文芸である。

さらに『日本昔話ハンドブック』(2010)では、それぞれの用語を以下のように定義している。

昔話：民間の人々が生活の中で伝えてきたもので、語り手が聞き手に語るという口承伝承（口承）を基本的な伝承の様式として持つ、一定の型を備えた散文の形式。

伝説：民間において口承で伝えられてきた散文形式の物語という点で昔話と共通するが、しばしば具体的な事跡や人物と結びついて、歴史的な事実性や、共同体における共有制を重視する点を特徴とする。

世話話：民間において口承で伝えられてきた散文形式の物語という点で昔話と共通するが、様式性や虚構性を重視しない点で異なる。また、語り手の身边で起こった出来事として自在に語られる点で伝説と区別される。

民話：民間において口承で伝えられてきた散文形式の物語である昔話・伝説・世話話の総称としての、民話説話の総称。

神話：天地の創造、生命や人類、民族の起源などを説明する話や、神々の活躍する話の総称。（中略）民間において口承で伝えられてきた散文形式のもの、つまり昔話として認められる神話もある。

篠原（2021）によれば、伝承物語は世界中で語り伝えられ、ドイツでグリム兄弟（1812）『子どもと家庭のメルヒェン集』が発刊されて以来多方面での研究が進められているという。

また伝承物語の研究について河合（1977）は、昔話は実に多面的な研究対象であり、現在では民族学、民俗学、文芸学、心理学等の立場から

研究されていることに触れている。

伝承物語には知恵や教訓等、長い年月をかけて受け継がれることによって蓄積された、他とは代えがたい「教育的価値」があると筆者自身も考えているが、この伝承物語の教育的価値について、篠原（2017）は「①安心感②言葉の獲得及び論理的思考の向上③自我の確立を助ける④幼児理解⑤人生の知恵や教訓を学ぶ」の5つがあると述べている。

つまり伝承物語の中には、後世に受け継がれるべき内容も多く含まれる。しかしながら、時代の流れとともに、保育者を目指す学生であっても、日本昔話の具体的な題名をあげられるものは減りつつある。またそれらがアニメやCMで利用されることにより、認知度は増すものの、その話を持つ本来の意味が失われつつあるように感じている。これは危惧すべき状況であり、この流れをほんの少しでも食い止める手段はないのだろうか。

今回、その手段の一つになることも願いつつ、1回生前期開講の『子どもと言葉』の授業の中で、開始後5～10分を使用して、毎回筆者自身が日本昔話の読み聞かせを行い（初回と最終回を除く13回）、その直後に、素朴な感想や昔話に込められている教訓などについて思うところを自由に入力するという試みを実施した。

今回の読み聞かせに使用した本は、学研の『日本のばなし20話（名作よんでよんで）』（2010）である。この本は、「3さいから6さい対象 *親子で楽しむ*おはなし絵本」というサブタイトルがついており、古くから日本の子どもたちに読み継がれてきた日本の昔ばなし20話が収録されている。この中から、表紙に題名が記載されている話を中心に、ランダムに13冊を選び出し、読み聞かせを行った。

本論はこの試みが「日本昔話」に関する受講

生の考えにどのような影響を及ぼしたか（もしくは及ばなかったか）について「価値観の変化」などを中心にまとめたものである。

2. 方法

(1) 調査対象者

1 回生の前期に『子どもと言葉』を受講した短期大学生で今回のアンケートに協力した 65 名。

(2) 調査時期

『子どもと言葉』の最終授業日に、ユニバーサルパスポートを利用して実施した。ユニバーサルパスポートとは、本学で使用しているサポートシステムで、大学生活を送るうえで必要なシラバス、履修登録、時間割参照、就職活動報告などのシステムから構成される総合的なポータルサイトである。授業資料の提示や出欠確認も行うことができる。

(3) 調査内容

* 日本昔話の読み聞かせに関する調査 *

I. 今回授業で取り上げた日本昔話について、当てはまる番号を記入してください。

1. 以前から内容も含めて知っていた
 2. 話の題名は聞いたことがあった
 3. 全く知らなかった
- ①ももたろう ②花さかじいさん ③かぐやひめ ④うらしまたろう（浦島太郎）⑤かにむかし（さるかに合戦）⑥きんたろう ⑦おむすびころりん ⑧つるのおんがえし ⑨いっすんぼうし ⑩したきりすずめ ⑪3まいのおふだ ⑫ぶんぷくちゃがま ⑬雪女

II. 今回の試みを体験して

1. よかった（役に立った等）と思うところ

2. 自分自身が変わったかと思うところ（価値観や、もののとらえ方等、自由に書いてください）

(4) 倫理的配慮

なお調査対象者には、インフォームド・コンセントを行い、本研究への協力に同意したものを調査対象者とした。回答は任意であること、回答の拒否や中断は可能であり、そのことによる不利益は生じないこと、回答者個人を特定しないものであること、教育・研究の目的以外には使用しないことを口頭で説明し了承を得た。

3. 調査結果

3-1 日本昔話に関する認知度調査

図1は授業前課題として使用した13種類の日本昔話について「以前から内容も含めて知っていた」「話の題名は聞いたことがあった」「全く知らなかった」の3件法で調査した結果である。もっとも認知度が高かったのは「ももたろう」で、以下「おむすびころりん」「うらしまたろう」「かぐやひめ」「つるのおんがえし」「はなさかじいさん」という結果になった。

3-2 今回の試みを体験して

次に自由記述により回答を求めた2つの質問「この試みをしてよかった（役に立った）ところ」と「価値観やモノの見方が変わったところ」については、テキストマイニングを実施した。分析には「KHCoder」を用いた。全文を入力した後、まず形態素分析を行い、抽出語を出現頻度別に並び替えた。図2と図3は、各々の問いに対して、出現頻度4回以上の語を用いて「共起ネットワーク」図（抽出語を用いて、出現パターンの似通ったものを線で結んだ図）を作成したものである。以下その内容について分析を試み

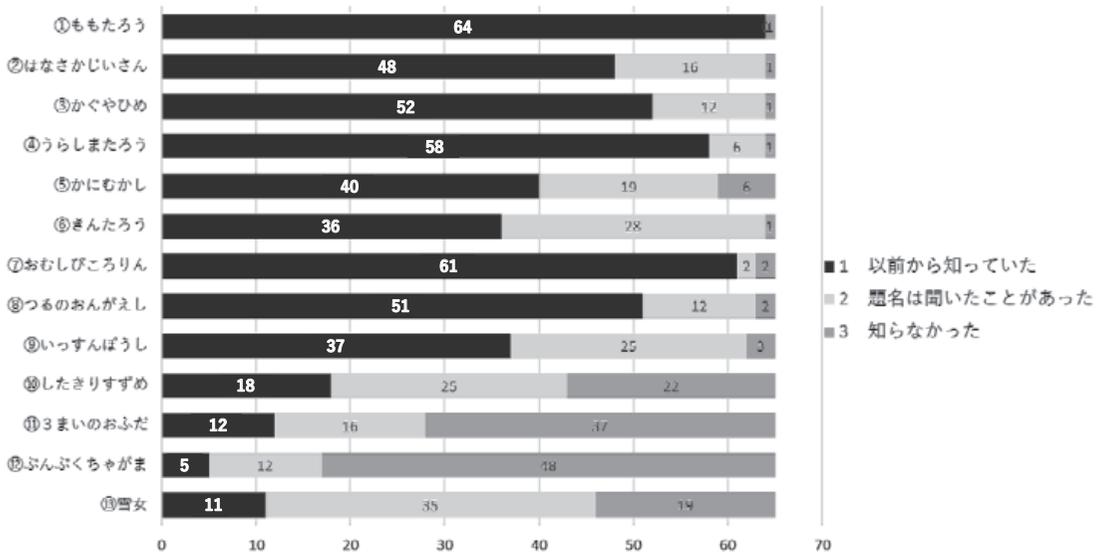


図1 日本昔話に関する認知度調査 単位(人)

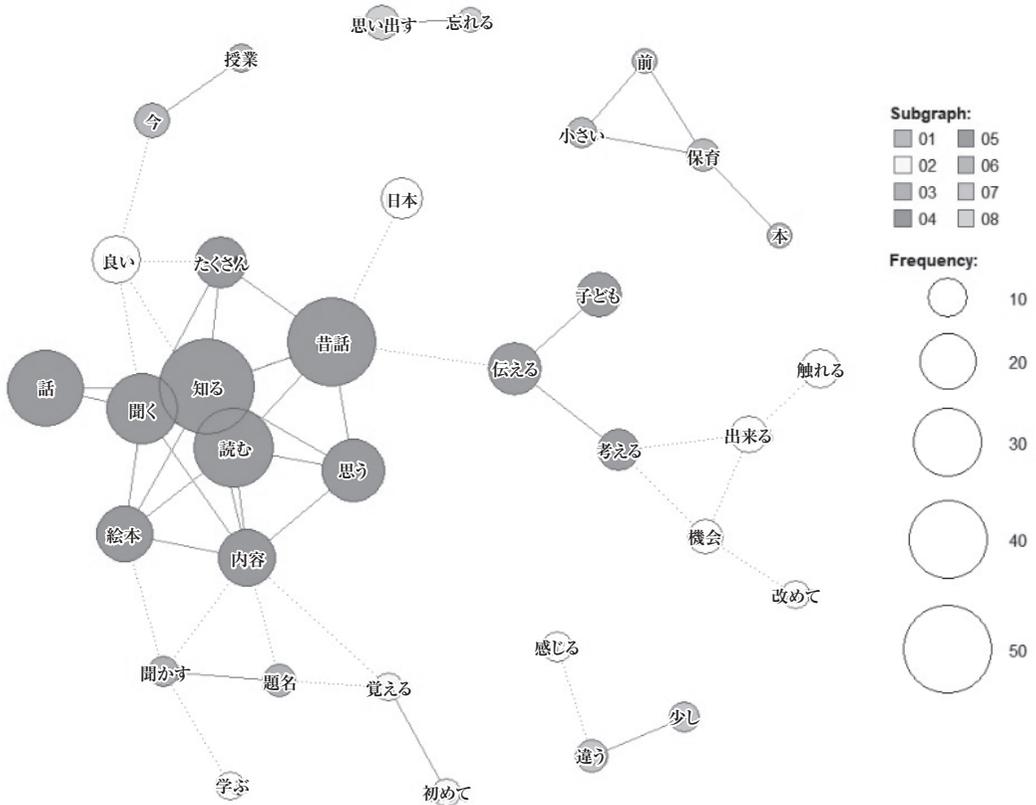


図2 良かった(役に立った)と思うところ

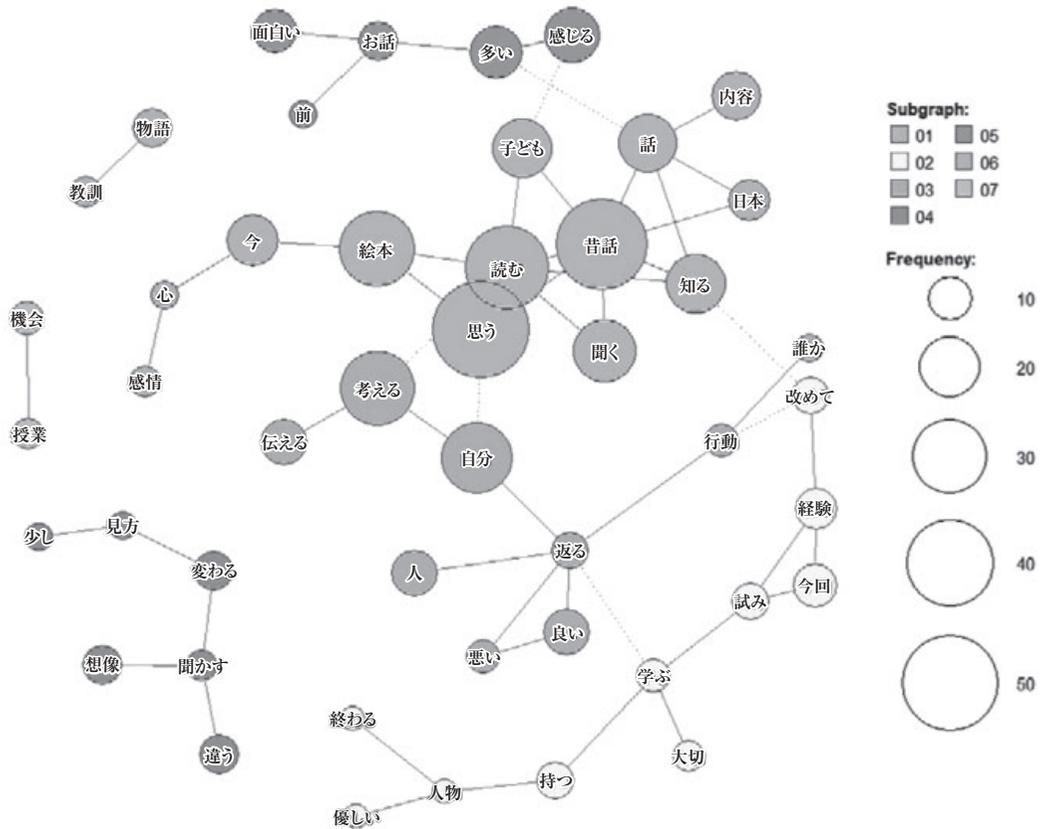


図3 価値観やモノのとらえ方の変化について

る。まず「よかった（役に立った）」と思うところについて、記述文には似た内容が多く含まれたが、図2を見ると、左側に大きなかたまりがあるのがわかる。

解釈すると「(日本) 昔話の絵本を読んでもらったことでたくさんの話の内容を聞いて知ることができてよかった」。また、人数的にはやや減るが「保育の現場の小さな子どもたちの前で」「子どもに伝える機会を持ちたいと改めて考えた」と解釈した。

具体例をいくつか示す。

・日本昔話は小さい頃にただ読んでいただけでしたが、今になって読んでみて子ども達に良い

考え方を身に付けられると思いました。日本昔話を通して良い事をしたらしいことが返ってくるし、悪いことをしたら罰が当たるということを物語にして伝えていて人として良くなっているのではないかと思いました。

・知らなかった昔話を知ることができました。また、知っていたお話でも私がかつて知っている展開と違っていたりして面白かったです。知ってお話でも、その昔話が伝えようとしていることについて考えながら聞いたことはなかったので、新たな気づきもありました。昔から長く受け継がれてきている昔話には、子どもたちに伝えたいことがたくさん含まれているのだと感じ

ました。時代の流れによって最後の展開が変わってしまったり、ふさわしくないと捉えられるものもあると分かったけど、これからの子どもたちにも伝えていきたいと思いました。

・特定の日本昔話しか知らなかったので様々な話に触れることができ面白かったです。昔話は、子どもに何かを伝えようとしているということ学びました。これまで昔話を読むときに何を意味しているのか等を考えて読むことがなかったので、視点を変えて読んでみても面白いと気づきました。

・今回の試みを経験して良かったところは、改めて多くの昔話を読み聞かせしていただいて昔話一つ一つの伝えたいことや教訓、その昔話から学ぶことたくさんあったことです。それを忘れかけてそうだった今に聞かせていただいて、また思い返すこともできました。

・全く知らなかったお話から、もともと知っていたけれど子どものころから10年以上読んでいなくて内容を忘れてしまっていたお話、ずっと覚えている好きなお話まで、様々な昔話と触れることが出来てよかったです。

・今まで知らなかった絵本を、授業を通して知ることができたので、将来保育者になった時に沢山の種類の絵本を読み聞かせすることが出来るので良かったです。また、絵本の読み聞かせを通してもう一度絵本を「読んでみたい」や他には「どんな絵本があるのか」など絵本にもっと触れたいと思うことが出来ました。

・昔話の絵本は読む機会がなく、改めて読んで絵本に隠されたものや作者の意図を考えることが出来ました。知らなかったお話もあり、もっ

とたくさんのお話を読んで子どもたちに伝えられたらいいなと思いました。

次に、今回の試みを通して「自分自身の価値観やモノのとらえ方が変わったか」という質問に対する分析の解釈を試みる。図3を見てみると、いくつかの塊があるのがわかる。

まず右上にある一番大きな塊は「日本昔話の読み聞かせをしてもらったことで、話の内容を知ることができ、子どもに読むとき今までより感情をこめて絵本（日本昔話）を読むことができると思う」と解釈した。また他に「以前より面白いお話が多いと感じた」「物語には（何らかの）教訓があることに気づいた」「誰か人に対して良い行動をすれば良いことが、悪い行動をすれば悪いことが自分に返ってくると伝えていると考えるようになった」「読み聞かせ？で想像していたのと違うところもあって少し見方が変わった」「今回、改めて（読み聞かせの）試みを経験したことで大切なことを学んだ。優しさを持っている人物が（最後は幸せになって）終わる（ということ）を学んだ」と解釈した。

具体例を示す。

・昔ばなしにはもうかかわらないと思っていました。今回昔話を読んでもらったことから、私も保育者になったとき子供たちに読みたいと思いました。私の偏見なのですが、子供たちは昔ばなしや伝承遊びなどから遠くなってきていると思っています。だから子供たちに紙芝居で読んであげたり、みんなで劇をしたりして、昔ばなし、伝承遊びへの考えをしっかり持ってほしいと思いました。

・今回の試みを経験して、昔話に対する考え方が変わりました。この試みをする前は子どもた

ちにただ単に楽しんでもらうために活用すると思っていたけど、そうではなく昔話を通して大切なことをたくさん学んでもらうためにも活用できるんだと感じました。自分もたくさん昔話を聞いて、思いやりを持つことや、良いことをしたらその分自分に返ってくるなど生きていく中で大切なことをたくさん学ぶことができたので、学んだことを忘れず生活していきたいなと思いました。

・日本昔話は大体の話が同じ内容だと思っていました。しかし、それぞれに起承転結があって、お話によって個性が溢れていることに気づきました。また、昔話と聞くとかしこまったイメージがあったけれど、実際にたくさんのお話を読んでみるとクスッと笑えるような内容が多く保育現場で子どもたちの読み聞かせで活用してみても面白いと感じました。

・子どもの頃は読んでいた時、あまり内容や背景を考えませんでした。ただ面白かった。今回、昔話の内容を振りかえったら、深い意味や話の中に伝えたいことを気づきました。しかし内容は今の社会の価値観に合うかどうかそれは考えた方が良いでしょう。(例えば、誰を食べたことや悪い人を殺したなど)

・その物語で伝えたい教訓について考えるようになりました。より絵本(日本昔話)に興味を持ちました。以前は絵本について考える機会がなかったので関心は薄かったのですが、この授業を受けて、絵本の素晴らしさを知ることができました。また今の若者は昔話に触れる機会が少ないため、物語の伝承がしにくくなっていることも知りました。

・良いことをするとそれが自分にも返ってくる、悪いことをしたらそれも自分に返ってくるという内容のお話が多かったと感じます。見返りを求めずに誰かのために行動することが、いずれ自分のためになると感じるようになりました。きんたろうを聞いて、誰かのためにした行動は自分が気づいていなくても、どこかで誰かが見てくれていると考えられるようになりました。

・今まで絵本を読む時、ただ面白そうなどの理由で絵本を読んでいただけ、絵本には必ず伝えたいことがあり、読み手は絵本を通して何が伝えなかったのか考えながら読むことで、更に楽しく読むことが出来ると分かりました。これから絵本を読むときは、注意しながら読みたいと思いました。また経験を通して、人は自分に得になることばかり考えて、自分優先で行動しても、自分に良い結果として返ってこないと改めて学ぶことが出来ました。私も自分中心で行動をしてしまうことがあるので、自分優先ではなく誰かのために行動しようと思いました。

・現代と違う内容と、子どもが触れ合う時間に、どんなメリットがあるのか考えてみました。1つ目は、想像力、言葉遣いなどのサポートになると考えました。現実ではありえないような話をされることで想像力が広がり、日本昔話は基本的に、丁寧な言葉が使われていることが多いと感じたので、言葉遣いの手助けになると考えました。2つ目に、ハッピーエンドや、善人は報われ、悪人は罰を受けるなどの話の落ちが多いので、子供は自然と「自分はこうならないようにしましょう」や「これはいけないこと、これはいいことだから自分もこうしよう」と2つのことを感じる事ができ、普段の行いの成長の手助け

になっていると考えました。私はこのように、日本昔話にはたくさんのメリットがあるという考えになりました。将来保育者になる身として、日本昔話を、絵本読み聞かせの中に積極的に取り入れたいと思えるようになりました。

・私は今まで絵本を読むときに、この絵本が何を伝えたかったのか、どんな教訓が含まれているのかなど、考えたことがなかったけれど、今回の試みを通してこの絵本は何を伝えたいのか、何を学ばせてくれるのかを考えるようになりました。

・昔話を聞く前は、最後は幸せで終わっていくんだと勝手に思っていたけど、昔話は、最後幸せになって終わるお話だけじゃなくて思っている展開にならないこともあって、とても面白くていいなと思いました。

・小さいころに読んでいた時の物語の見方は戦いに行って悪者を倒したらかっこいいとかすごいとかだったけれど、この年齢で読むと少しひどいなどか思うところもあって、もの見方が多方面から見られるようになったのかなと思います。

・今まで昔話は「ハッピーエンドで終わってよかった」「いじわる爺さんって意地悪だな」など読んだ後は浅い感想ばかりだったけれど、この授業を通じていいことをすると自分に返ってくることやいじわる爺さんの気持ちなど絵本にたいして深く考えることができました。この経験を活かし、保育士として園児に何を伝えていきたいのか考えて、絵本を読んだり選んだりしたいです。

4. 考 察

日本において、民間の人々が生活の中で、語り手が聞き手に語るという口承伝承（口承）を基本的な伝承の様式とし伝えられてきたのが日本昔話である。つまり日本昔話とは、語るためのお話であるといえる。

では今の子どもたちはどのようにして、この日本昔話に触れる機会を持つのだろうか。祖父母や両親から絵本を読んでもらう、また保育園や幼稚園で保育者に読んでもらうというのが主な機会だろうか。

かつて『まんが日本昔話』というテレビ番組が放映されていた期間があった。絵本ではないが、そのテーマソングや番組内のナレーターの独特の語り口などにより、少し前の子どもたちは、幼いころの日本昔話に関する記憶として残っているものも少なからずあるかもしれない。また携帯電話のCMで日本昔話の登場人物がパロディ化されて登場するものもあったが、これらは場合によっては本来のお話の内容からかけ離れたものになる場合もあったように思う。

今回の調査結果を振り返りながら、本学の現在の幼児教育学科の学生の、日本昔話に関する状況について順次振り返ってみたい。

まず今回取り上げた13の話については、3分の2以上について、以前から知っていたという回答になった。しかしながら久しぶりに読んで（聞いて）みると、内容についてはあいまいな記憶としてしか残っていないものも多く、改めて聞いてみると話に込められたメッセージなどが感じられることもあったようである。

また伝承物語は口承伝承が基本であるため時に考えられることではあるが、今回使用した学研の『日本のばなし20話』（2010）と、以前読んだ同じ題名のお話の内容が部分的に異なって

いるという指摘もいくつかあった（筆者自身が気づく例もあった）。

この部分について上述のテキストの最終ページに、編集部より以下のような記述がある。「表記については、出典をもとに読者対象年齢に応じて、一部変更しています。（また）作品の一部に現代において不適切と思われる語句や表現などがありますが、執筆当時の時代背景を考慮し、原文尊重の立場から原則として発表当時のままとしました。」

この問題については授業の中では、今回は5分から10分で読み終わることを考慮したため、同じ絵本を使用して読み聞かせを行った。しかし、図書館や本屋さんには、それぞれのお話が1冊の絵本として出版されているものもあるので、これを機会に、そちらにも触れる機会を持ってほしいと伝えた。

次に自由記述で回答を求めた2つの質問について考察する。まず「この試みが良かった（役に立った）と感じたこと」について、読み聞かせは面白いと感じている学生が多かった。今まで知らなかったお話を知ることができたのも良かったが、以前から知っていたものでも、改めて聞いてみると、昔は気づかなかった物語に込められたメッセージや教訓のようなものに気づいたものもいた。また今度は自分が保育の現場で、読み聞かせをする絵本として、同じように日本昔話も取り上げたいと答える学生もいた。お話の面白さだけでなく、何か学ぶものがあるとうすうす感じたということである。また、筆者自身の読み方を自分の読み聞かせの参考にしたいという意見もあった。

次に今回の試みを通して「自分自身の価値観やモノのとらえ方が変わったか」という質問についてまとめる。前出の「良かった点」の記述と内容が重なる部分もあったが、ただ面白いだ

けではないという事に気づいた学生は多かった。その中でも、「良いことをするとそれが自分にも返ってくる、悪いことをしたらそれも自分に返ってくる」「人は自分に特になることばかり考えて、自分優先で行動しても、自分に良い結果としては返ってこない」「善人は報われ、悪人は罰を受ける」「欲張ってはいけない」などのテーマが盛り込まれているものが多いので、結果的に子どもは「自分はどうならないようにしましょう」「これはいけないこと、これはいいことだからじぶんもしよう」と実際に言葉で教えるしつけとは別に、子どもに自然と善悪の基本的な考え方を身に付けさせることができる。また普段の行いの成長の手助けになる等と考えるものもいた。また、そこからさらに発展して、絵本を選ぶ時の基準として、自分は園児に何を伝えたいのかなども考えながら選びたいという考えが生まれた学生もいた。

この内容については今回の実践を通して、筆者が受講生に気づいてもらいたかった一番大きなテーマである。そこが多少なりとも伝わったことは、今回の試みには一定の効果があったと判断しても良いのではないかと考えている。

日本昔話にはお爺さんとお婆さんが主人公になったり（ももたろう・かぐやひめ・いっすんぼうし・はなさかじいさん）、見ることを禁じる主題（つるのおんがえし）、女性に対する否定的な見方（雪女・三枚のお札）、謙譲の美德（舌切り雀）などがよく見られる。

これについて安藤（2009）は、日本の自我が反映されているとする。まとめると、無欲で善人であることが大切である、禁止されたことは守り、自分の欲求を抑え、社会的な評価に沿うように生きることこそ望ましいというような自我観である。昔話は、そもそも語りかけることによって教育をしていたわけではないが、もし

かしたら、日本昔話に触れる機会が多かった時代の子どもたちは、無意識のうちにその影響を受け、大人になって子どものしつけや教育を考える場合、その価値観や考え方に影響を及ぼした可能性はあるかもしれない。

学生の感想の中にもあったように、時代の流れとともに、文化や価値観の在り方は変わっていく。かつてブルーナー（1986）は「教育は文化である」と語ったというが、次世代へ語り継がれ受け継がれていくものと、受け継がれることなく消えていくものを決めるのは、まさに今を生きている若者の考え方である。

教員にできることは、世の中にはたくさんの価値観があること、そしてその沢山の価値観の中で、自分自身は何を選び取るのか、自分の頭で考え、自ら判断する力を持てるよう導くことであろう。

今回の日本昔話の読み聞かせで、どれだけの影響があったかは定かではないが、伝えるメッセージや教訓が、受講生の持つ価値観等に多少なりとも影響を与えていたのならうれしく思う。

引用文献

- 安藤則夫（2009）昔話から見た日本的自我のとらえ方—日本昔話を持つ教育的効果に関する一考察— 植草学園大学研究紀要 1. pp 77-86.
- 稲田浩二・稲田和子（2010）『日本昔話ハンドブック新版』三省堂 pp.290-291
- 絵本専門士委員会国立青少年教育振興機構（編）（2020）『認定絵本士養成講座テキスト』（2020）中央法規出版
- 河合隼雄（1977）『昔話の深層』福音館書店
- 篠原京子（2017）伝承物語の読み聞かせの意義 常葉大学保育学部紀要 4. pp99-109
- 篠原京子（2021）学校教育における伝承物語の教育的価値についての一考察—小学校国語科の教材としての役割— 未来の保育と教育—東京未来大学保育・教職センター紀要 8. pp11-20
- J.S. ブルーナー（著）鈴木 祥蔵（翻訳）佐藤三郎（翻訳）（1986）『教育の過程』岩波書店
- 西本鶏介（2011）『日本のばなし20話（名作よんでよんで）』学研
- 柳田邦夫（1976）『口承文芸史考』p9. 講談社